

## [報告]

## 第 29 回高性能シミュレーションに関するワークショップ (WSSP29) 開催報告

江川隆輔<sup>1,2</sup>, 小松一彦<sup>2</sup><sup>1</sup>スーパーコンピューティング研究部, <sup>2</sup>高性能計算技術開発 (NEC) 共同研究部門

東北大学サイバーサイエンスセンターは、ドイツのシュトゥットガルト大学高性能計算センター (HLRS) と NEC と共に 2019 年 3 月 19 日 (火)～20 日 (水)にかけて高性能計算に関する国際ワークショップ「第 29 回 Workshop on Sustained Simulation Performance (WSSP29)」を開催しました。本ワークショップは、国際的に活躍している計算科学の研究者及びスーパーコンピュータ設計者を招き、高性能・高効率大規模科学計算に関する最新の研究成果の情報交換を行うとともに、今後のスーパーコンピュータの研究開発のあり方を議論することを目的に開催されております。

今回のワークショップは、本学の青木孝文理事・副学長のご挨拶、文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付計算科学技術推進室長 坂下鈴鹿氏の Society5.0 を見据えた我が国の HPC 政策、ならびにポスト京コンピュータの研究開発事業に関する講演で幕を開けました。また、ドイツシュトゥットガルト大学高性能計算センター (HLRS) の Michael Resch センター長からは将来の高性能計算 (HPC) と人工知能 (AI) の在り方に関する講演、本学の小林広明教授からは、現在取り組んでいる文科省次世代領域開発事業「量子アニーリングアシスト型次世代スーパーコンピューティング基盤の開発」に関する講演、理化学研究所計算科学研究センターの石川裕氏からは 2021 年に稼働予定の次期フラグシップスパコン「ポスト京」の最新の開発状況に関する講演など、日本、ドイツ、ロシアの研究者により、アプリケーション開発、HPC システム開発と性能評価、システム運用技術など、最新の HPC 技術動向に関する幅広い分野の 25 件の技術講演がありました。2 日間を通して延べ 158 名の参加者が集い、将来の高性能計算の在り方に関する活発な議論が行われ、大変有意義なワークショップとなりました。その他ワークショップに関する詳細は web ページ <https://www.sc.cc.tohoku.ac.jp/wssp29/ja/index.html> をご覧ください。

末筆ではございますが、本ワークショップ開催にあたり多大なご支援を賜りました学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 (JHPCN)、一般社団法人 HPCI コンソーシアム、年度末のお忙しい中ご参加、ご講演いただいた皆様に深く感謝いたします。



坂下氏のご講演



ワークショップの様子